見本

令　和　5　年　度

芸術文化学部　芸術文化学科

（募集区分ｂ）

特別選抜

学校推薦型選抜　帰国生徒選抜　社会人選抜

小　論　文

注　意　事　項

1　**試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開かないこと。**

2　問題は，全部で４ページ，解答用紙は１枚，下書用紙は１枚である。試験開始の合図があってから確認すること。
なお，試験問題に文字などの印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は，手を挙げて監督者に知らせること。

3　**試験開始後に，解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。**
氏名を書いてはいけない。

4　解答は，すべて解答用紙に記入すること。

5　配付された問題冊子および下書用紙は，試験終了後，持ち帰ること。

実施年月日
-4.11.30
富山大学

令和５年度富山大学学校推薦型選抜・帰国生徒選抜・社会人選抜

補　足　説　明

見本

○１１月３０日（水）

小論文　９時 30 分試験開始：芸術文化学部

○　問題文３ページ目の最後から２行目について，
次のとおり補足します。

３ページ目

最後から２行目

・・・止みません。

↓

・・・や止みません。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「デザイン」をなんとか分類しようと試行した跡が、現在、国内の図書館などで基準とされている図書分類法に残っています。その日本十進分類法（ＮＤＣ：注１）を見てみると、大きな括（くく）りとして10類に分けられた１次区分表にも、10類から枝分かれした２次区分表にも「デザイン」は見つけられず、さらに細かい区分けの３次区分表になって初めて芸術（７類）の２次区分「絵画」の下に「グラフィックデザイン、図案」、同じく７類の２次区分「工芸」の下に「デザイン、装飾美術」として登場するこの二ヶ所にだけ、「デザイン」のカタカナ四文字を確認できます。

（中略）

では、そもそもデザインは分類できるものなのでしょうか？　結論から先に言えば、全ての物事を分類してきた人類の歴史にあって、もしかすると唯一、ジャンル分け不可能なのが「デザイン」という概念であるように思われます。なぜなら、人の営みの中で、デザインが一切関わっていない物（モノ）や事（コト）など一つもないからです。政治、経済から医療、福祉、衣食住、教育、科学、技術、エネルギー、社会活動、等々まで、どんな分野のどんな物事にも、すでにデザインがある。情報の整理整頓も、衆議院・参議院といった政治の仕組みも、人の命にかかわる医療機器やコンピューターのインターフェイス（注２）も、被災地の都市計画も、毎日読む文字も数字も、信号やスマホから流れる音も光も、デザインでないものはありません。そしてデザインとは、まるで水のようなものなのではないかと思えてくるのです。我々が生きる上でなくてはならないものとして……。

デザインは水に似て、時には見えるけれど、時には見えることさえない。見える場合の例をあげるなら、産業革命以来、デザインが工業に必要だったから工業デザインを発達させ、衣服にも必要だった衣服デザイン、もしくはファッションデザインとして認識され、シンボルマークや標識にも必要だったのでグラフィックデザインという分野が生まれ、商品にも必要なプロダクトデザインの括りが生まれ、さらに造形力や表現力を身につけるべきデザイン教育の場が必要だったからこそ、多くの芸術大学にデザイン科が置かれました。そして見えないほうは例をあげるまでもなく、他のすべての人間の営みそのものなのです。芸術にだってデザインが必要で、美術館は建築というデザインですし、都市や公園、さらには大自然の中で芸術表現するのだとしても、今や人の営みが及んでいない自然なんて地球の表面にはないでしょうから、人がなし得る全ての企てには、計画的であるか否かにかかわらず、必ずデザインが及んでいるのです。デザインをこのように捉えるならば、デザインは他のあらゆる分野と並列すべきものではなく、各分野と人とを繋ぐ、横に広がるフィルター、あるいはレイヤー（注3）のようなものなのです。

昔からよく、アートとデザインの違いは何か、といった議論が繰り返されてきましたが、それはデザインを、分類された一つの分野と捉えてしまったことによる議論であって、アートとデザインは、そもそも比べるものではなく、アートが人に届くためにはデザインが必須ですから、ゆえにアートとデザインが融合したかに感じられる作品があるのは当然のことです。

何度でも言いますが、人の営みにおいては、どんな発想も、どんな技術も、どんな素材もデザインを経なければ役立つ物や事にはなり得ません。グラフィックデザインを絵画にだけ分類している場合ではないばかりか、さらに大きな括りとしての「デザイン」が工芸の分類で装飾美術と並べられているだけでいいわけがなく、当然、全ての分類に標準装備されるべきものなのです。身近な例をあげると、「文字」はどの分野にも存在するので、実際にはどの分野にもグラフィックデザインが存在している

のに、その認識が各分野の当事者にも一般社会にも、残念ながらまったくないのが現状なので、見るに耐えない汚いレイアウトの企画書などが横行したりする。思い当たることはありませんか？

幼い頃からデザインは飾りのようなものだと刷り込まれてきたのですから、多くの人たちに、デザインなんて自分には関わりない話だと思われても仕方のないことだったでしょう。しかしだからこそ、今後のデザイン教育にも大きく影響を与える分類法が、このままでいいはずがないのです。

デザインと言えばカッコいいもの、オシャレなもの、洗練されたもの、モダンなもの、カワイイもの、シンプルなものといった様々なイメージがあると思いますが、それらはデザインのごく一部にしか過ぎません。どうぞデザインを水のようなものだとイメージしてみてください。水は、我々が生きるうえでなくてはならないものであり、時には目に見え、時には見えずに我々と環境を繋いでくれています。津波のような災害をもたらすこともある（これに相当するのは「付加価値」や「デザインする」などの誤った認識による害でしょう）けれど、太陽の光と共に美しい虹を見せてくれることもある。ありとあらゆる事象に水が関わって成り立っているのと同じように、デザインは全ての人間の営為を成り立たせるために必要なものなのです。ゆえに、このような視点に立っての分類法の改正や、これからのデザイン教育のあり方が問われなければならないのだと思って止みません。

（佐藤　卓　『塑（そ）する思考』から）

（注１）　日本で広く使われている図書を分類する方法の一つ。

（注２）　コンピューターで、機器やプログラムどうしをつなぐ装置、または部分。

（注３）　層。階層。

問一　筆者が、デザインを「水のようなもの」と表現する理由を二〇〇字程度で説明しなさい。

問二　問一をふまえて、デザインがどのような役割を果たしているか、物（モノ）や事（コト）の具体例を挙げ、六〇〇字程度で述べなさい。

見本

令和五年度　芸術文化学部　芸術文化学科　（募集区分ｂ）

（特別選抜／学校推薦型選抜　帰国生徒選抜　社会人選抜）

科目	小論文

解答用紙

問一

問二

総点	

受験番号							

見本

下書用紙